

令和5年度 奈良市立大安寺幼稚園 研究実践概要

園長名 上野 真喜子
全園児数 21名

1. 研究主題 「“やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみよう”」
—夢中になって遊ぶ子どもの育成をめざして—
2. 研究年度 2年度

3. 研究主題設定理由

昨年度の研究より、「やってみよう」「楽しいな」「もっとやってみよう」と心や体が動き出すような環境構成や援助が大切であり、その子どもの思いを受け止め、共感し、楽しさを共有してくれる保育者の存在が遊びの継続や広がりにつながっていくことがわかった。今年度は、夢中になって遊ぶとはどのような姿なのかを探り、その姿につながるための環境構成や援助のあり方について分析し、実践していけるよう研究主題に設定した。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

夢中になって遊ぶ姿から、子どもの“やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみよう”という思いや心が動いた要因を探り、それに応じた援助や環境構成を考え、工夫する。

②研究の重点

- ・昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度の取組について共通理解を図る。
- ・夢中になって遊ぶ姿につながるための環境や保育者の援助及び指導のあり方についての研修を進め、実践する。
- ・子どもの学びや育ちを保護者に伝わるようなドキュメンテーションの作成及び活用方法について探る。

③活動の方法 夢中になって遊ぶ姿

保育者の援助

環境構成

保育者の意図

I. 4歳児 7月 『みんなで倒そうラスボス！』

- ねらい ○友達や保育者に自分の思ったことや感じたことを伝えながら遊ぶ。
○水や泥の面白さや不思議さを味わいながら遊ぶことを楽しむ。

砂場で泥を固めた小さな山のような壁をつくり、バケツの水を勢いよく流して壊すことを楽しんでいるA児B児。「次はもっと大きくしよう」「一番大きいからラスボスだ！」と、しっかり固めた大きな泥の壁をつくり「せーのー！」でA児B児共に水を流すが中々崩れない。A児「泥って水が嫌いなのになんでかな」B児「バケツの水が少なかったらラスボスに負けるから水をパンパンに入れてみよう」など、不思議に思ったことや気付いたことを友達や保育者に話しながらか遊ぶ。保育者も「ラスボスはやっぱり強いね。どうしたらいいかな？」と一緒に

水や泥の不思議さや面白さを感じたり見立てたりしている子どもなりの表現方法を、保育者も同じ言葉で共感したり使ったりすることで遊びの楽しさがより味わえるようにする。また、泥や水についての個々の気づきを一緒に遊んでいる他児も知ることができるよう全体に伝える。

に考える。その様子を見ていた C 児 D 児が「入れて」とバケツを持ってきて遊びに加わる。「いいよ。みんなで一緒に流したらラスボス倒せるんじゃない!?」と A 児。4人で「せーのー!」と一斉に水を流すと、大きな泥の壁がゆっくりと溶けて崩れていった。「うわー! やったー!」「ラスボスやっつけた」と喜ぶ。A 児は「みんなで流したら水が最強になった」と嬉しそうに保育者に伝える。「みんなで流した水は最強だね」と保育者も応える。「もう一回しよう」と色々な大きさ、場所に泥の壁をつくり、崩れるか試したり、みんなで一緒に水を流したりして繰り返し遊ぶ。

保育者も遊びの一員となり思い切り水を流して遊べるようタイミングをみてタライの水を補充する。

「みんなで流すと水が最強になった」という A 児の思いに共感することで友達と一緒にだから味わえる遊びの楽しさを感じてほしい。

<考察>

水と砂が混ざると泥になり固まりやすくなる、泥に水をかけると溶けるように崩れる、水の量が多いと泥は崩れやすいなど、水や泥の性質に触れながら遊ぶ姿に繋がった。また、自分の思ったことや感じたことを一緒に遊ぶ友達や保育者に伝え、その思いを保育者が受け止めたり、共感したりしたことでより泥や水の不思議さや面白さを味わうことができた。そして「みんなで流すと水が強くなった」と、一人では味わえない遊びの楽しさやラスボスという名の大きな泥の壁を倒したいという思いが実現し、満足感を味わうことができた。

II. 4歳児 12月 『これなら届きそう!』

- ねらい ○ 友達に自分の思いを伝えたり友達の話の話を聞いたりして一緒に遊ぶことを楽しむ。

- 友達と一緒に試したり考えたり工夫したりしながら遊ぶ。

紙コップを天井に向かって、高くしようと重ねながら積んで遊んでいる A 児 B 児 C 児 D 児。「C ちゃんより大きくなったね」「今僕と同じくらいだ」「先生よりはまだまだ低いな」など、友達や保育者の身長と高さを比べながら遊ぶ。どんどん高くなってくと、椅子に乗っても届かなくなってきた。A 児は少しずつ高く積んだ紙コップを傾けて届くようにしようとする。すると「グネ〜」と曲がり「うわー! ヘビみたいになってきた! これなら届きそう」と、曲がった先に、紙コップを繋げていこうとする B 児 C 児 D 児。しかし曲がった先はまだ高さがある中々届かない。「A 君もうちょっと下にして」「C ちゃんこれ以上無理だよ! あー! 壊れそう。B 君下のところ一緒に持って」「下ってどこ?」「僕の足のところ」など、伝え合いながらなんとか届けようとする。「届いた! そのままストップ A 君!」「D ちゃん一緒に紙コップ繋げていこう」「届いたけど、次は紙コップ落ちていっちゃいそうなんだけど」「もうちょっと上にした方がいいんじゃない」など、紙コップが崩れそうで崩れない状況を楽しみながら遊んでいる。

紙コップが崩れたとき、他児に当たったり、周りの物にぶつかったりしないよう場を広く保つようにする。また、高く積みたい様子だったので紙コップの量をたくさん用意する。

保育者は見守る姿勢をとったり、さりげなく遊びの楽しさに共感したりするなど、遊びに入り込み過ぎないことで、紙コップを繋げたいという共通の思いをもって、友達同士で思いを伝え合ったり受け入れたりし、試行錯誤しながら遊べるようにする。

身近な素材の紙コップを重ね、傾けたことで起きた動きの面白さ、不思議さ、楽しさを味わいながら遊んでほしい。また、遊びを通して“高い低い”や“角度”などに気付きながら遊んでほしい。

<考察>

紙コップを高く積みたいという思いから A 児が少しずつ傾けたことから、崩れそうで崩れない感覚、また紙コップの微妙な傾き加減が、子ども達の「面白い」「楽しい」という気持ちを刺激したことで「もう少し下にして」と伝えたり（高さや低さ）友達と一緒に傾き加減を調整したり（角度）考えたり工夫したりしながら遊ぶ姿となった。友達と思いを出し合ったり友達の声の聞いて受け入れたりしながら共通の思いをもって遊ぶことができた。また、紙コップを繋げるにあたって、“支える人”“繋げようとする人”などに分かれ、遊びを通して自然と役割分担しながら遊ぶことができた。

Ⅲ. 5歳児 4月後半から10月 『やってみよう!』

- ねらい ○友達と体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- 友達と思いを出し合いながら、遊ぶことを楽しむ。
- 自分の目標に向かって友達と挑戦しようとする。

体を動かす楽しさを知ったり、体の動かし方や体幹を鍛えたりするために毎朝遊びの前に体操、縄跳び体操をしている。

両足を揃えて跳ぶことが難しい子もいるが、跳べるようになりたいという気持ちがあり、保育者や周りの友達に認めてもらったり励ましてもらったりし、諦めずに毎日挑戦している。またクラスでも、跳ぶ回数をみんなで決めたり友達ができたことを他の子に知らせたりしたことで、友達を応援したり、一緒に跳べた喜びを味わったりする姿が見られるようになった。

あきらめなくて挑戦し跳べるようになってほしい。

友達と一緒に頑張ったり、友達を応援したりする姿を見守り、できた喜びに共感する。また、満足感を味わえるようにする。

クラスみんなで共有できるように縄跳び表を掲示しておく。「今日は、後ろ跳び30回!」「私は前跳び40回しよう!」と、表を見ながら自分の目標を決め、挑戦している。目標を達成すると、「やった〜!じゃあ次は、何にしようかな」といろいろな跳び方に挑戦している。また、一緒に跳んでいた友達も「数えるわ!」「すごい!跳べたやん!」と、一緒に喜びを味わう姿も見られた。縄跳び表の達成できた種目に名前を書き、どんどん名前が増えていくことを友達同士で喜んでいた。

跳べるようになった喜びを、次の意欲につながってほしい。

いろいろな跳び方に挑戦できるように縄跳び表をつくり、友達同士で頑張ったことを共有できるように掲示しておく。

友達の頑張りを認めたり、励ましたり、刺激となったりしてほしい。

運動会での障害物競走をまたやりたいという思いから、太鼓橋やはしご、フープ、跳び箱など並べてコースをつくりアスレチック遊びが始まった。「はしごの高さを変えてみる?」「坂道にしたらどうかな?」「いいね」と高さを変えたり、「フープちょっと遠くにしてみよう!」「えー、跳べないよ」「じゃあ、1つは近くにしよう」とジャンプする場所を変えたりしている。また「ここ渡ったら、下くぐることにしよう」「反対でもいいよね」「ooちゃん、トンネルくぐった?」と、コースを考え友達に伝えている。1人1人自分のできる方法で挑戦しながら何度も繰り返し遊んでいた。

友達と一緒に考えてコースをつくる楽しさを味わってほしい。

友達と思いを出し合いながら、コースをつくっている姿を見守ったり、考えたことを認めたりする。

遊びの振り返りでは、1人1人が手をあげて頑張ったことを友達の前で自信をもって話していた。片付けの時には、「明日はどうする?」と友達と話し、明日のアスレチック遊びを楽しむ姿があった。

遊びの振り返りで自分の思いが伝えられるように声をかけたり、1人ずつの頑張りを認めたりする。

〈考察〉

子どもの跳べるようになりたいという頑張る気持ちを受け止めたり、認めたりしてきた。また、タイミングを図って縄跳び頑張表を出したことで、友達と一緒に挑戦してきた達成感と満足感を味わうことができた。続けていくことで、次の目標ができ挑戦する姿がある。

縄跳びや、アスレチック遊びに挑戦し「昨日はできなかったけど、今日はできた」と出来た時の喜びを味わったことで、自信となり繰り返し遊ぶ中で「次はこうしたい」「もっとやってみよう」と遊ぶ姿につながった。

IV. 5歳児 11月頃 『キリン立たせたい!』

ねらい

- 作品展に向けて、友達と一緒にイメージをもってつくる事を楽しむ。
- 友達と意思を出しながら、考えたり試したりしてつくる。

作品展の共同製作で何をつくるのかを話し合い遠足で行った動物(園)をつくることになった。園内を探して周り、いろいろな大きさの段ボール・フープ・太鼓橋・ホースなどの素材を見つけてきて動物づくりが始まった。

「キリンの足を立たせたい」と、4本の長い筒を体にする箱に置き A 児達が考えている。「テープでくっつける?」「箱に穴をあける?」など意思を出し合いながら考えている。どちらもキリンを立たせたいという意思が強くなかなか決まらない。保育者も一緒に考えながら「まだ、首も頭もつけるからどんどん重くなっていくよ」と声をかけた。

普段から好きなものをつくって遊んでいる D 児が、「穴をあけて突き刺すとグラグラしないよ」と経験したことを思い出し、「そうか!」「やってみよう!」とハサミで穴を開け始めた。ハサミをグリグリと回したり、穴を切り広げたり、力いっぱい引っ張ったりそれぞれに考えながら友達と順番に開けている。「もう入るかな?」「一回さしてみよう」「えー。まだまだや」「もっと大きくしないと」と穴の広さを考えながら開けている。何度も調節し、筒がうまく入った時は「やった!」とみんなで喜んだ。ドキドキしながら手を離してキリンが立つと「キリン立ったよ!!」と友達と満足感を味わっていた。

友達と意思や考えを出したり、意思を聞いたりしてほしい。

お互いの意思を受け止めながら、一緒に考え自分達で考えられるようにヒントを出してみる。

友達と考えながら穴をあけている姿や自然と順番交代をしたり、力を合わせてつくったりしている姿を見守る。

<考察>

自分の意思だけでなく、友達の意思や考えを聞き、「いいね」「やってみよう」と受け止めることができるようになり、共通の目的に向かって頑張る姿があった。一人ではできないことが友達と力を合わせるとできること、「もうできない」「やめる」と途中で諦めないで最後まで取り組むことの大切さを改めて知る経験になった。意思のぶつかり合いはあるが、友達の意思を受け入れ自分なりに納得したり、友達を認めたりする姿も出てきている。作品作りを通して、友達と一緒に考えたり、試したり工夫したりしながら1つの物をつくり上げていく楽しさを感じ味わうことができるようになってきている。いろいろな遊びや活動でも、友達と一緒に諦めないで最後まで取り組んでほしい。保育者もそういう環境をつくっていききたい。

5. 研究の成果

- ・保育者が信頼できる人的環境となることで“安心安定”を土台にし、発達段階に応じた環境構成・援助することで、自分のしたい遊びを見つけたり、様々なことに挑戦しようとしていたりする。
- ・自分の思ったこと考えたことを言葉や行動で実現しようとする姿を見取り、気づき、試行錯誤、発見を繰り返して経験できるように意図的な援助や環境構成をすることで“もっとやってみよう”という夢中になって遊ぶ姿に繋がることが見えてきた。
- ・でいあシートやドキュメンテーションを作成し、保育者間で話し合ったことで、多角的に子どもを見る力を養い、子どもの経験から保育方法を見直し、子どもの興味関心に沿って保育を進める対話的プロセスを実行することが出来た。

6. 今後の課題

- ・日々の保育を振り返り、話し合いながら見取る力を養い職員間でしっかりと連携し、少人数こそその関わりを深められるように保育内容を充実させていきたい。
- ・今年度職員間で共有した子どもの学びや育ちを小学校や保護者への発信方法やかき方の工夫を探りながら往還的に実践していききたい。